

2015年2月12日

プレスリリース

本資料は2月12日にチューリッヒ
で発表されたプレスリリースの翻訳
版です

クレディ・スイス・グループの2014年第4四半期業績:

戦略的事業のコア税引前利益 14 億 4,900 万 CHF、株主資本利益率 11%

公表コア税引前利益 11 億 7,800 万 CHF、株主資本利益率 8%

当四半期末現在のルックスルーの CET1 比率は 10.2%、2014 年末の目標 10%を上回る。

クレディ・スイス・グループの2014年通期業績:

戦略的事業のコア税引前利益 67 億 9,000 万 CHF、株主資本利益率 12%

公表コア税引前利益 35 億 900 万 CHF、米国のクロスボーダー案件に関する和解費用勘案後も前年と比較して安定的に推移。株主資本利益率は5%

当四半期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業業績:

戦略的事業の税引前利益 10 億 700 万 CHF

堅調な貸出の伸びと売却益が、前年同期比で減少した運用報酬や長引く低金利環境によるマイナスの影響を上回った

ウェルス・マネジメント顧客事業の新規純資産は 44 億 CHF と堅調

当四半期のインベストメント・バンキング部門の戦略的事業業績:

戦略的事業の税引前利益 5 億 7,900 万 CHF

業務の分散化が強みを発揮。市場のボラティリティの上昇や、資金調達評価調整 (Funding Valuation Adjustments:FVA) の採用によるマイナスの影響にもかかわらず、安定的な収入及び改善した収益率が貢献

当四半期のレバレッジ・エクスポージャーを、外国為替換算の影響考慮前で 510 億 CHF 削減。クレディ・スイス・グループの修正後のレバレッジ目標を発表

重要な対応策の実施により、スイス国立銀行(スイス中央銀行)の行動によってもたらされた通貨や金利環境の変動による影響を十二分に補うと予想される

クレディ・スイス・グループ全体の2014年の変動インセンティブ報酬の経済価値は前年比で9%減少。継続的な報酬管理及び安定的な公表税引前利益(米国のクロスボーダー案件に関する和解費用勘案後)を反映

取締役会は、2014年の1株当たり現金配当として前年と同じく0.70 CHFを提案(スイスの源泉徴収税対象外)。また、新株による受け取りも選択可能な株式配当のオプションも提供

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の当四半期業績:

- ・ 戦略的事業の税引前利益は 10 億 700 万 CHF、前年同期比で若干減少。規制資本利益率は 30%。
- ・ 公表税引前利益は 8 億 8,200 万 CHF。既に発表済のコスト削減措置に起因する事業再編費用を含む。
- ・ 戦略的事業の費用／収入比率は、2014 年第 4 四半期は 67%、2014 年通期は 68%。
- ・ ウェルス・マネジメント顧客事業のネット・マージンは 27 ベーシス・ポイント(bp)へ上昇、このうち売却益の寄与は 3bp。
- ・ 超富裕層個人向けの貸出は全ての地域にわたって大幅増。2014 年の純新規貸出は 56 億 CHF、対して 2013 年は 9 億 CHF。
- ・ ウェルス・マネジメント顧客事業の新規純資産は 44 億 CHF。新興国、特に欧州・中東・アフリカ(EMEA)とアジア太平洋地域からの資金流入が牽引。
- ・ プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業の正味資産流出は 2 億 CHF。資金運用を、Hedging-Griffo から、当グループが重要な投資を行っているブラジルの新規ベンチャーである Verde Asset Management へ移管した影響で資産が 92 億 CHF 流出。
- ・ プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の公表正味資産流出は 30 億 CHF。継続的な資産基盤の標準化による非戦略的事業ユニットからの資産流出を含む。

インベストメント・バンキング部門の当四半期業績:

- ・ 戦略的事業における税引前利益は 5 億 7,900 万 CHF、前年同期比 20% 増、安定的な収入、コスト基盤の削減、レバレッジ・エクスポージャーの縮小による。
- ・ 公表税引前利益総額は 1,200 万 CHF、資金調達評価調整と非戦略的事業における損失を含む。
- ・ 業績は、当初の資金調達評価調整により 2 億 7,900 万 CHF のマイナスの影響を受け、そのうち 1 億 800 万 CHF は戦略的事業に、1 億 7,100 万 CHF は非戦略的事業に計上。
- ・ 資金調達評価調整を除く戦略的事業の規制資本利益率は 12%。
- ・ 戦略的事業収入は、業務の分散化が強みを発揮。調達評価調整や市場のボラティリティの上昇によるマイナスの影響にもかかわらず、収入は前年同期比で安定的に推移。
- ・ 前四半期比でリスク加重資産は 100 億米ドル減、レバレッジ・エクスポージャーも 620 億米ドル減となり、資金効率が改善

目標とした 10% のルックスルーの CET1 比率を超過、レバレッジ目標を修正

- ・ ルックスルーの BIS CET1 比率は 10.2%。2014 年末の目標 10% を超過。スイスのルックスルーの総資本比率は 16.5%、対して 2014 年第 3 四半期末は 15.8%。
- ・ 当四半期中に、外国為替変動考慮前でレバレッジ・エクスポージャーを 510 億 CHF 削減。当四半期末のルックスルー・レバレッジ比率は 3.9%、ルックスルー CET1 レバレッジ比率は 2.4%。
- ・ クレディ・スイス・グループのレバレッジ・エクスポージャーについて約 2,300 億 CHF の追

加削減を目標とし、新たな目標圏は為替変動考慮後で 2015 年末までに 9,300 億から 9,500 億 CHF。ハイ・トリガー及びロー・トリガーの商品を含むルックスルーのレバレッジ比率目標は、2015 年末までに約 4.5%、そのうち、Tier 1 コンポーネントは約 4.0%、CET1 コンポーネントは約 3.0%。

各対応策が通貨や金利環境の変動による影響を十二分に補うと予想

- ・ 2014 年の業績において税引前利益に対するマイナスの影響は約 1 億 2,500 万から 1 億 7,500 万 CHF 又は 3%。これは 2 億 CHF のコスト削減の増加分も含む、2015 年に予定される対応策を勘案後の数字。
- ・ マイナスの影響は、2017 年末までに十二分に相殺されると予想。
- ・ 対応策は、プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の成長戦略、及びその他のクレディ・スイス・グループにおける 2011 年コスト削減プログラムに基づくコスト削減によっても補完されると予想。コスト削減のうち、2011 年上半期年率換算ランレート対比 35 億 CHF の調整済年率換算コスト削減額は既に 2014 年末で達成。

2014 年の報酬:

- ・ クレディ・スイス・グループ全体の変動インセンティブ報酬の経済価値は前年比 9% 減少。継続的な報酬管理、安定的な公表税引前利益 (米国のクロスボーダー案件に関する和解費用勘案後) を反映。
- ・ 取締役会と業務執行理事会は共に自発的に報酬削減を受け入れた。取締役の報酬総額は約 25% 削減され、さらに業務執行理事会の変動インセンティブ報酬は本来授与されていたであろう額の 20% 相当が当期及び前期に分割される形で削減された。

クレディ・スイス・グループは、2015年2月12日、2014年第4四半期及び通期の業績を発表しました。

今回の発表について、最高経営責任者(CEO)のブレイディ・ドゥーガンは、次のように述べました。「第4四半期の堅調な業績は、ボラティリティが上昇した厳しい市場環境の下での当社の揺るぎない実績を示したものです。戦略的事業の資本利益率は、第4四半期で11%、通期では12%となりました。当四半期中は、レバレッジ・エクスポージャーをさらに引き下げ、資本基盤強化措置の実施を継続し、ルックスルーCET1は、米国の和解による影響考慮後で、年末の目標である10%を上回りました。」

株主還元について、「取締役会は、2014年の1株当たり現金配当として前期並みの0.70CHFを提案しています。また株式配当のオプションも提供し、株主は配当を株式で受け取ることも選択できます。今後も、ルックスルーCET1資本比率が10%を継続的に上回り、レバレッジ比率目標を満たしている限り、利益の半分を株主に還元することといたします。」

変化する通貨と金利環境について、「1月のスイス国立銀行の発表を受けた大幅なスイスフラン高騰及び一段と顕著となった低金利環境が当社の収益性に及ぼす影響に対応すべく、多くの対応策を実施しています。2014年の業績ベースで、当社の利益に対する正味のマイナスの影響は約3%と推定しており、既に発表した2017年末までの対応策により、このマイナスの影響は十二分に相殺できると予想しています。」

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門について、「同部門の戦略的事業の税引前利益は10億CHFと堅調でした。2013年第4四半期との比較では、運用報酬の減少と持続的な低金利環境がマイナスの影響を及ぼしました。しかし、当社の超富裕層個人に対する貸出プログラムによって貸出は引き続き堅調に成長し、2部門間のコラボレーション収益が改善しました。ウェルス・マネジメント顧客事業の新規純資産は、新興国市場からの堅調な資金流入によって順調に増加しました。」

インベストメント・バンキング部門について、「同部門の戦略的事業の利益率は、前年同期比で20%改善しました。戦略的事業の収益は、ボラティリティが一段と上昇した市場環境においても安定性を保ち、その結果、主にトレーディング事業が恩恵を受けましたが、引受事業ではマイナスの影響を受けました。これは、当社の分散化された業務の安定性の証左と言えるでしょう。さらに、同部門では、力強い収益率を維持するという戦略に沿って、リスク加重資産とレバレッジ・エクスポージャーの削減を引き続き進めています。」

2015年第1四半期の見通しについて、「クレディ・スイス・グループの年初来の収益性は、昨年と同水準です。当社のプライベート・バンキングと販売及びトレーディング事業は、ここ数週間で改善の傾向を示しました。引受及びアドバイザリー業務は、市場のボラティリティによって出足は鈍いものの、力強いパイプライン案件を有しており、その実行は市場環境次第です。」

コア業績サマリー

本業績リリース(株主資本利益率及び規制資本利益率の記載内容を含みます。)に記載されている財務情報に関する追加情報については、当社ホームページにある決算リリースの付属資料(Appendix)の開示財務諸表及び22ページの「重要な情報(Important Information)」セクションにおける資本及びレバレッジ関連指標に関するその他の開示説明資料をご覧ください。

コア業績ハイライト

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	増減率(%) YoY
公表業績(単位:百万CHF)								
純収益	6,376	6,537	5,920	(2)	8	25,815	25,217	2
貸倒引当金繰入額	75	59	53	27	42	186	167	11
営業費用合計	5,123	5,177	6,396	(1)	(20)	22,120	21,546	3
継続事業からの税引前利益/(損失)	1,178	1,301	(529)	(9)	-	3,509	3,504	0
株主に帰属する純利益/(損失)	921	1,025	(476)	(10)	-	2,105	2,326	(10)
指標(%)								
規制資本利益率	11.4	12.8	-	-	-	8.8	8.9	-
費用/収入比率	80.3	79.2	108.0	-	-	85.7	85.4	-
戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純収益	6,000	6,287	6,024	(5)	0	25,126	25,475	(1)
貸倒引当金繰入額	56	53	32	6	75	152	91	67
営業費用合計	4,495	4,612	4,531	(3)	(1)	18,184	18,211	0
継続事業からの税引前利益	1,449	1,622	1,461	(11)	(1)	6,790	7,173	(5)
株主に帰属する純利益	1,155	1,115	1,082	4	7	4,962	5,095	(3)
指標(%)								
規制資本利益率	14.9	17.1	16.6	-	-	18.3	19.9	-
費用/収入比率	74.9	73.4	75.2	-	-	72.4	71.5	-
非戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純収益	376	250	(104)	50	-	689	(258)	-
貸倒引当金繰入額	19	6	21	217	(10)	34	76	(55)
営業費用合計	628	565	1,865	11	(66)	3,936	3,335	18
継続事業からの税引前損失	(271)	(321)	(1,990)	(16)	(86)	(3,281)	(3,669)	(11)
株主に帰属する純損失	(234)	(90)	(1,558)	160	(85)	(2,857)	(2,769)	3

注:上記コア業績には、重要な経済的持分を持たない非支配持分は含まれておりません

2014年第4四半期の株主に帰属する純利益は9億2,100万CHFでした。

税引前利益は、前年同期は5億2,900万CHFの税引前損失であったのに対し、当四半期は11億7,800万CHFの税引前利益となりました。これは主に、営業費用合計の20%の減少と純収益の8%の増加によるものです。戦略的事業の税引前利益は14億4,900万CHFと、前年同期と比べてほぼ横ばいとなりました。非戦略的事業では、前年同期は19億9,000万CHFの税引前損失であったのに対し、当四半期は2億7,100万CHFの税引前損失でした。

純収益は、63億7,600万CHFと前年同期と比べて8%上回りました。戦略的事業の純収益は60億CHFでほぼ横ばいとなりましたが、これは、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の純収益の若干の減少により相殺されたものの、コーポレート・センターの純収益の増加と、インベストメント・バンキング部門の同水準の純収益によるものです。非戦略的事業の純収益は、前年同期は1億400万CHFのマイナスであったのに対し、当四半期は3億7,600万CHFでした。

当四半期の貸倒引当金繰入額は、7,500万CHFで、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の引当金繰入額(純額)が4,200万CHF、インベストメント・バンキング部門の引当金繰入額(純額)が3,000万CHFでした。

営業費用合計は、51億2,300万CHFと前年同期を20%下回りましたが、これは主として一般管理費の35%減によるものです。戦略的事業の営業費用合計は、44億9,500万CHFと前年同期と比べて横ばいでしたが、これは、従業員報酬及び給付費用の7%の減少が、一般管理費の6%増と手数料費用の11%増により相殺されたためです。非戦略的事業の営業費用合計は、6億2,800万CHFで前年同期を66%下回りましたが、これは主として、前年同期における米国税務問題及び米連邦住宅金融局(FHFA)との和解に関連する非常に多額の訴訟関連引当金の計上を反映して、一般管理費が75%減少したことによるものです。当四半期の事業再編費用は2億6,500万CHFでした。

当四半期の法人税は、2億3,600万CHFでした。これは主に各地域の業績の合計による影響、差し引きで1億7,600万CHFの課税となった英国とスイスにおける繰延税金資産の再評価の影響及び監査終了と税務に関する和解の結果生じた2億2,300万CHFの税控除を反映したものです。全体として、当四半期末の繰延税金資産(純額)は、前四半期から5億9,100万CHF増加し、59億8,300万CHFとなりましたが、これは主として為替変動と、当四半期における前四半期からの年金資産及び債務の積立状況に関する変化並びにこれに関連した繰延税金資産の変動によるものです。純営業損失に対する繰延税金資産は、当四半期中に8億2,200万CHF増加して18億1,200万CHFとなりました。コア業績の実効税率は、前四半期は28.1%であったのに対し、当四半期は20.0%でした。

2014年通期の株主帰属利益は21億500万CHFと、前年を10%下回りました。税引前利益は35億900万CHFと前年比でほぼ横ばいでした。純収益は258億1,500万CHFで、前年を2%上回りました。戦略的事業の純収益は251億2,600万CHFと前年比でほぼ横ばいで、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の純収益は若干減少し、インベストメント・バンキング部門の純収益はほぼ横ばいでした。2014年の非戦略的事業の純収益は6億8,900万CHFと、前年の2億5,800万CHFの純損失から改善しました。貸倒引当金繰入額は、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門における減少により一部相殺されたものの、インベストメント・バンキング部門における増加を反映し、11%増加しました。営業費用合計は221億2,000万CHFと前年を3%上回りましたが、これは主として、一般管理費の8%増によるものです。戦略的事業の営業費用合計は181億8,400万CHFでほぼ横ばいでした。非戦略的事業の営業費用合計は39億3,600万CHFと、前年を18%上回りましたが、これは主として、米国の未解決のクロスボーダー案件全てについての最終的な和解に要した訴訟和解関連費用16億1,800万CHFに牽引された一般管理費の25%増を反映したものです。2014年の事業再編費用は6億800万CHFとなりました。

一部の訴訟手続に関する合理的な可能性のある損失の範囲: クレディ・スイス・グループが推定可能な訴訟の既存引当金で網羅されない合理的な可能性のある損失に関して、クレディ・スイス・グループが総額として推定している範囲は、当四半期末現在でゼロから13億CHFです。

継続事業からの希薄化後1株当たり利益は、0.54 CHF(前年同期は0.37 CHFの希薄化後1株当たり損失、前四半期は0.55 CHFの希薄化後1株当たり利益)でした。

資本配分の提案: 取締役会は、2015年4月24日の年次株主総会において株主に対し、2014年度の配当として、資本拠出準備金から1株当たり0.70 CHFを提案する予定です。配当は、スイスの源泉徴収税の課税対象外であり、また、個人投資として株式を保有しているスイス居住の個人に対しては所得税も課税されません。配当は、現金、又は株主が選択する場合にはクレディ・スイス・グループの新株で支払われます(株主の法域で適用される法的規制に従います。)

統合事業モデルのメリット: 当四半期中に、クレディ・スイス・グループは、統合事業モデルから 11 億 CHF のコラボレーション収益を創出しました。この金額は、当グループの当四半期のコア純収益の 17.7%に相当します。

資産調達評価調整の採用: クレディ・スイス・グループは当四半期に、インベストメント・バンキング部門において無担保デリバティブに対する資産調達評価調整の適用を採用しました。資産調達評価調整はまた、受け入れた担保が調達目的で利用できない担保付デリバティブにも適用されます。銀行業界では、この評価手法に移行する銀行が増えており、この手法は、無担保デリバティブの調達費用を、デリバティブの有効期間全般にわたって計上するのではなく、現在価値で計上します。当四半期のインベストメント・バンキング部門における本手法の採用による移行により 2 億 7,900 万 CHF を臨時的費用として計上しました。

2014 年の報酬: クレディ・スイス・グループ全体の 2014 年の変動インセンティブ報酬の経済価値は前年を 9% 下回りました。これは、継続的な報酬管理及び米国の全てのクロスボーダー案件に関する 28 億米ドルの最終的な和解費用の影響があったにもかかわらず安定した公表税引前利益を反映しています。取締役会と業務執行理事会は共に、2014 年の自らの役員報酬の削減を自発的に提案しました。報酬委員会は取締役会と業務執行理事会の 2014 年の報酬を提案するにあたり、クレディ・スイス・グループの監督及び経営管理を担う最上位機関が、クレディ・スイス・グループの世界的な事業における長期的な名声と専門家として品位を保つために負っている共同責任を反映するために、各個人がそれらの機関の取締役及び委員をいつ務めたかにかかわらず、今回の件がこれら最上位機関の報酬にも反映されるべきだと判断しました。取締役会は 2014 年の株式報酬の 50% の削減を受け入れましたが、これは報酬総額の約 25% に相当します。報酬委員会は業務執行理事会のメンバーに対する 2014 年の変動報酬として、本来授与されていたであろう額の 20% 相当の削減を適用しました。この削減額のうち、半分は 2014 年の長期インセンティブ報酬として授与されるべき額から差し引かれ、残りの半分は 2013 年に授与されたが権利未確定の長期インセンティブ報酬から差し引かれました。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門

2014 年第 4 四半期のプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の税引前純利益は 8 億 8,200 万 CHF、純収益は 32 億 2,600 万 CHF でした。同部門の**戦略的事業**においては、税引前利益は 10 億 700 万 CHF、純収益は 32 億 600 万 CHF でした。前年同期と比較して、税引前利益は減少しましたが、これは、その他の収益の増加により一部相殺されたものの、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益並びに純利息収入の減少によるものです。純収益は、前年同期と比較して若干減少しましたが、これは、イタリアの富裕層と超富裕層向け事業の売却益及びユーロクリアに対する投資の一部売却に関連した利益により一部相殺されたものの、運用報酬が大幅に減少したことによるものです。税引前利益は、前四半期と比較して増加しましたが、これは営業費用合計の増加によって一部相殺されたものの、純収益が増加したことによるものです。純収益の増加は主として、運用報酬の大幅な増加と、売却益により牽引されたその他の収益の増加を反映したものです。同部門の**非戦略的事業**においては、税引前損失は 1 億 2,500 万 CHF となり、純収益は 2,000 万 CHF となりました。当四半期の同部門の運用資産は 1 兆 3,773 億 CHF で、同部門の正味資産流出は 30 億 CHF に上りました。

2014 年通期のプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の税引前利益は 20 億 8,800 万 CHF、純収益は 126 億 3,700 万 CHF でした。同部門の**戦略的事業**においては、税引前利益は 37 億 2,600 万 CHF、純収益は 121 億 800 万 CHF でした。純収益は前期と比較して若干減少しましたが、これは、その他の収益の増加によって一部相殺されたもののトランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益と純利息収入の減少によるものです。経常手数料収益は安定的に推移しました。2014 年の貸倒引

当金繰入額は1億 1,200 万 CHF、純貸出ポートフォリオは 2,360 億 CHF でした。営業費用合計は前期と比較して減少しましたが、これは、従業員報酬及び給付費用の減少、手数料費用の減少、一般管理費の若干の減少によるものです。同部門の**非戦略的事業**においては、前年の3億 8,700 万 CHF の税引前損失に対して当期は 16 億 3,800 万 CHF の税引前損失となりましたが、これは、米国の全ての未解決のクロスボーダー案件の最終的な和解に関連した 16 億 1,800 万 CHF の和解関連費用によるものです。純収益は5億 2,900 万 CHF で、前年を大幅に下回り、全ての収益カテゴリーで減少しましたが、これは、当期中の**非戦略的事業**の縮小によるものです。2014 年の業績はまた、ドイツで計上された国内プライベート・バンキング事業の売却益1億 900 万 CHF と、Customized Fund Investment Group の売却益 9,100 万 CHF も反映しています。対して前年は、上場投資信託及びセカンダリー・プライベート・エクイティ事業の売却益2億 3,700 万 CHF と、投資関連収益1億 2,800 万 CHF を含んでいます。

資本指標: 当四半期末現在の同部門の**戦略的事業**におけるバーゼル3リスク加重資産は 1,020 億 CHF で、前年同期末と比較して 130 億 CHF 増加しました。これは、手法の変更と、事業の成長によるリスク水準の上昇及び外国為替変動によるものです。当四半期末の同部門の**非戦略的事業**のバーゼル3リスク加重資産は 60 億 CHF で、前年同期末から変動がありませんでしたが、これは、**非戦略的事業**ポートフォリオの縮小の継続的な実施に起因する 20 億 CHF の減少が、2014 年第1四半期における外部的な手法に関する 20 億 CHF の影響で相殺されたためです。スイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは 110 億 CHF となり、前年同期末と比較して 50%減少しました。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門

	期/期末			増減率(%)		期/期末			増減率(%)	
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY		
公表業績 (単位: 百万CHF)										
純収益	3,226	3,125	3,429	3	(6)	12,637	13,442	(6)		
貸倒引当金繰入額	42	25	44	68	(5)	123	152	(19)		
従業員報酬及び給付費用	1,265	1,194	1,314	6	(4)	4,984	5,331	(7)		
その他の営業費用合計	1,037	963	1,647	8	(37)	5,442	4,719	15		
営業費用合計	2,302	2,157	2,961	7	(22)	10,426	10,050	4		
税引前利益	882	943	424	(6)	108	2,088	3,240	(36)		
指標 (%)										
規制資本利益率	24.9	27.3	13.4	-	-	15.4	25.6	-		
費用/収入比率	71.4	69.0	86.4	-	-	82.5	74.8	-		

戦略的事業業績

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業業績は、ウェルス・マネジメント顧客事業、コーポレート&インスティテューショナル顧客事業、アセット・マネジメント事業の各事業から構成されています。

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門-戦略的事業業績

	期/期末			増減率(%)		期/期末 増減率(%)		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純利息収入	985	968	1,038	2	(5)	3,870	4,155	(7)
経常手数料収益	1,177	1,149	1,149	2	2	4,601	4,554	1
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	976	827	1,137	18	(14)	3,587	3,818	(6)
その他の収益	68	(5)	(64)	-	-	50	(93)	-
純収益	3,206	2,939	3,260	9	(2)	12,108	12,434	(3)
貸倒引当金繰入額	39	26	27	50	44	112	82	37
営業費用合計	2,160	2,041	2,185	6	(1)	8,270	8,725	(5)
税引前利益	1,007	872	1,048	15	(4)	3,726	3,627	3
指標 (%)								
規制資本利益率	29.8	26.7	35.4	-	-	29.0	30.7	-
費用/収入比率	67.4	69.4	67.0	-	-	68.3	70.2	-

2014年第4四半期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業における税引前利益は10億700万CHF、純収益は32億600万CHFでした。当四半期の業績は、スイスフランに対する米ドルの平均為替レートが上昇した影響を受け、収益と運用資産にはプラスの影響をもたらしましたが、(主としてウェルス・マネジメント顧客事業における)費用にはマイナスの影響を及ぼしました。

当四半期の純収益は、前年同期と比較して若干減少しましたが、これは、その他の収益の増加及び経常手数料収益の若干の増加により一部相殺されたものの、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少と純利息収入の減少によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少は、モデル事業からの収益による企業アドバイザー手数料の増加と、仲介及び金融商品発行手数料収入の増加によって一部相殺されたものの、運用報酬と成功報酬の大幅な減少及びプレースメント手数料の減少によるものです。純利息収入は、低金利環境の中で減少しましたが、これは、増加した平均貸出残高に対する利ざやが増加したことによって一部相殺されたものの、増加した平均預金残高に対する預金金利の利ざやが大幅に減少したためです。その他の収益は増加しましたが、これは、イタリアにおける富裕層と超富裕層向け事業の売却益及びユーロクリアに対する投資の一部売却に関連した利益によるもので、その大半がウェルス・マネジメント顧客事業に計上され、残りはコーポレート&インスティテューショナル顧客事業に計上されています。また、Asset Management Finance LLCに関連する減損が当四半期に減少したことも要因です。経常手数料収益は若干増加しましたが、これは、投資商品運用手数料収入の若干の減少により一部相殺されたものの、投資運用一任契約手数料の大幅な増加と投資口座及びサービス手数料収入の増加によるものです。

純収益は、前四半期と比較して増加しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益とその他の収益の増加、経常手数料収益及び純利息収入の若干の増加によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の増加は、前四半期には流動資金ポートフォリオにおける資金効率の高いポジションに関連する利益を含んでいたのに対し当四半期に株式投資益が減少したことにより一部相殺されたものの、シングル・マネージャー・ヘッジ・ファンドの年間運用報酬の大幅な増加、成功報酬及びプレースメント手数料収入の増加によるものです。その他の収益は増加しましたが、これは、イタリアにおける富裕層と超富裕層向け事業の売却益及びユーロクリアに対する投資の一部売却に関連した利益によるものです。経常手数料収益は若干増加しましたが、これは、

投資口座及びサービス手数料収入の増加、投資運用一任契約手数料の増加並びに資産運用手数料収入の若干の増加によるものです。純利息収入は若干増加しましたが、これは、若干増加した平均貸出残高に対する利ざや及び預金残高に対する預金金利の利ざやが安定的に推移したためです。

貸倒引当金繰入額は、3,900万CHF(前年同期は2,700万CHF、前四半期は2,600万CHF)でした。これは、コーポレート&インスティテューショナル顧客事業におけるコモディティ、ストラクチャード・ファイナンス及び海運に関連してそれぞれ個々の案件数が少なかったこと反映しています。

当四半期の営業費用合計は、前年同期比では横ばいでしたが、前四半期比では増加しました。前年同期と比較すると、従業員報酬及び給付費用は2%減少しました。一般管理費は5%増加しましたが、これは、訴訟関連引当金が積増しされ、かつ支払報酬が増加したためです。前四半期と比較すると、従業員報酬及び給付費用は6%増加しましたが、これは、裁量業績連動報酬の費用が増加したためです。一般管理費は7%増加しましたが、これは、支払報酬及び広告宣伝及びマーケティング費用の増加によるものでしたが、訴訟関連引当金の減少で一部相殺されました。

当四半期の戦略的事業の費用/収入比率は67%であり、前年同期と比較して安定的に推移し、前四半期を2ポイント下回りました。

当四半期中に、イタリアにおける富裕層と超富裕層向け事業のBanca Generali S.p.A.に対する売却を完了しました。また、Credit Suisse Hedging-Griffo Asset Managementの元トップが新会社であるVerde Asset Managementの支配株主になり、クレディ・スイス・グループが少数株主となる取引も完了させました。

ウェルス・マネジメント顧客事業

	期/期末			増減率(%)		期/期末 増減率(%)		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純利息収入	695	695	760	0	(9)	2,784	3,050	(9)
経常手数料収益	765	744	742	3	3	2,967	2,956	0
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	600	603	554	0	8	2,442	2,438	0
その他の収益	93	0	0	-	-	93	0	-
純収益	2,153	2,042	2,056	5	5	8,286	8,444	(2)
貸倒引当金繰入額	10	17	18	(41)	(44)	60	78	(23)
営業費用合計	1,566	1,489	1,572	5	0	5,966	6,316	(6)
税引前利益	577	536	466	8	24	2,260	2,050	10
指標 (%)								
費用/収入比率	72.7	72.9	76.5	-	-	72.0	74.8	-

当四半期のウェルス・マネジメント顧客事業の税引前利益は5億7,700万CHF、純収益は21億5,300万CHFでした。純収益は、前年同期と比較して5%増加しましたが、これは、純利息収入の減少で一部相殺されたものの、その他の収益とトランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益が増加し、経常手数料収益が若干増加したためです。その他の収益は増加しましたが、これは、イタリアにおける富裕層と超富裕層向け事業の売却益、並びにユーロクリアに対する投資の一部売却に関する利益の大半によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は増加しましたが、これは、Hedging-Griffoからの運用報酬の大幅な減少により一部相殺されたものの、企業アドバイザリー手数料が増加し、外国為替顧客事業が増加し、並びに仲介及び金融商品発行手数料収入が増加したことによるものです。経常手数料収益は若干増加しましたが、これは、投資商品運用手数料収入の減少とバンキング・サービス手数料収入の若干の減少で一部相殺されたものの、投資運用一任契約手数料が増加し、投資口座及びサービス手数料収入が増加したためです。純利息収入は減少しましたが、これは、低金利環境において若干増加した平均預金残高に対する預金金利の利ざやの大幅な減少、増

加した平均貸出残高に対し横ばいの貸出金利の利ざや、及び安定資金供給源として分類される預金量の減少によるものです。

当四半期の純収益は、前四半期と比較して5%増加しましたが、これは、その他の収益の増加と、経常手数料収益の若干の増加によるものです。その他の収益は増加しましたが、これは、イタリアにおける富裕層と超富裕層向け事業の売却益と、ユーロクリアに対する投資の一部売却に関する利益の大半によるものです。経常手数料収益は若干増加しましたが、これは、投資運用一任契約手数料の増加、バンキング・サービス手数料収入の若干の増加、並びに投資口座及びサービス手数料収入の若干の増加によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は安定的に推移しましたが、これは、株式投資益の大幅な減少が、外国為替顧客事業の増加、企業アドバイザー手数料の増加、及び当四半期中の与信回収による不動産関連益によって相殺されたためです。株式投資益の大幅な減少は、前四半期には流動資金ポートフォリオにおける資金効率の高いポジションに関連する利益が含まれていたためです。純利息収入は安定的に推移しましたが、これは、若干増加した平均貸出残高及び預金残高に対する貸出金利及び預金金利の利ざやが安定的だったためです。

当四半期のグロス・マージンは、99 bp であり、前年同期と比較して5 bp 減少しましたが、これはイタリアにおける富裕層と超富裕層向け事業の売却益と、ユーロクリアに対する投資の一部売却に関する利益の大半により一部相殺されたものの、主に、平均運用資産の9.6%増加と不利な金利環境の継続によるものでした。グロス・マージンは、前四半期と比較して2 bp 上昇しましたが、これは、平均運用資産の2.8%の増加で一部相殺されたものの、売却益の恩恵を受けたためです。

当四半期のウェルス・マネジメント顧客事業のネット・マージンは、27 bp であり、前年同期と比較して4 bp 上昇しました。これは、平均運用資産の9.6%の増加により一部相殺されたものの、売却益によるものです。ネット・マージンは、前四半期と比較して2 bp 上昇しましたが、これは、売却益が営業費用の増加により一部相殺されたためです。

コーポレート&インスティテューショナル顧客事業

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)								
純利息収入	290	273	278	6	4	1,086	1,105	(2)
経常手数料収益	112	113	108	(1)	4	460	451	2
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	111	107	102	4	9	453	455	0
その他の収益	5	(5)	(3)	-	-	(26)	(15)	73
純収益	518	488	485	6	7	1,973	1,996	(1)
貸倒引当金繰入額	29	9	9	222	222	52	4	-
営業費用合計	269	239	263	13	2	1,004	1,027	(2)
税引前利益	220	240	213	(8)	3	917	965	(5)
指標 (%)								
費用/収入比率	51.9	49.0	54.2	-	-	50.9	51.5	-

当四半期のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業の税引前利益は2億2,000万CHF、純収益は5億1,800万CHFでした。純収益は前年同期と比較して7%増加しましたが、これは、全ての収入カテゴリーにおける増加によるものです。純利息収入は増加しましたが、これは、安定資金供給源として分類される預金量の減少と、増加した平均預金残高に対する預金金利の利ざやが著しく低下したことにより一部相殺されたものの、増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやが増加したことによるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は増加しましたが、これは、外国為替顧客事業の減少と企業アドバイザー手数料の減少により一部相殺されたものの、当四半期中の与信回収に伴う不動産関連益、仲介及び金融商品発行手数料収入の増加、販売及びトレーディング収入の増加によるものです。その他の収益は増加しましたが、これは、ユーロクリアに対する投資の一部売却に関連

する利益によるものです。経常手数料収益は増加しましたが、これは、投資運用一任契約手数料の減少により一部相殺されたものの、バンキング・サービス手数料収入が増加し、また投資商品運用手数料収入が増加したためです。

前四半期と比較して、純収益は6%増加しましたが、これは、純利息収入の増加、その他の収益の増加並びにトランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の増加によるものです。純利息収入の増加は、若干増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやの若干の増加と、増加した平均預金残高に対する預金金利の利ざやの若干の低下によるものです。その他の収益は増加しましたが、これは、ユーロクリアに対する投資の一部売却に関連する利益によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は増加しましたが、これは、当四半期中の不動産関連益によるもので、企業アドバイザー手数料の減少により一部相殺されました。経常手数料収益は安定的に推移し、投資商品運用手数料収入は増加しました。

アセット・マネジメント事業

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)								
経常手数料収益	300	292	299	3	0	1,174	1,147	2
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	265	117	481	126	(45)	692	925	(25)
その他の収益	(30)	0	(61)	-	(51)	(17)	(78)	(78)
純収益	535	409	719	31	(26)	1,849	1,994	(7)
内フィー・ベースの収益	554	398	769	39	(28)	1,818	2,017	(10)
貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-	0	0	-
営業費用合計	325	313	350	4	(7)	1,300	1,382	(6)
税引前利益	210	96	369	119	(43)	549	612	(10)
指標 (%)								
費用/収入比率	60.7	76.5	48.7	-	-	70.3	69.3	-

2014年第4四半期のアセット・マネジメント事業の税引前利益は2億1,000万CHF、純収益は5億3,500万CHFでした。純収益は前年同期と比較して26%減少しましたが、これは、株式投資益及びその他の利益の改善により一部相殺されたものの、主にフィー・ベースの収益の減少によるものです。フィー・ベースの収益の減少は、株式投資益の増加により一部相殺されたものの、Hedging-Griffoからの運用報酬が大幅に減少したこと、シングル・マネージャー・ヘッジ・ファンドからの運用報酬が減少したこと及びプレースメント手数料が減少したことによるものです。株式投資益とその他利益の改善は、Asset Management Finance LLCに関連する減損が、前年同期は6,800万CHFであったのに対して、当四半期には400万CHFとなったことによるものです。

純収益は、前四半期と比較して31%増加しましたが、これは主に、シングル・マネージャー・ヘッジ・ファンドからの年間運用報酬及びプレースメント手数料が増加したことを背景に、フィー・ベースの収益が増加したためです。

当四半期のフィー・ベース・マージンは57bp(前年同期は87bp、前四半期は42bp)でした。前年同期比での減少は、フィー・ベースの収益が減少したこと、及び平均運用資産残高が前年同期と比較して11.1%増加したことによるものです。前四半期比での増加は、前四半期と比較して2.3%増加した平均運用資産残高の増加によって一部相殺されたものの、フィー・ベースの収益が増加したことによるものです。

非戦略的事業業績

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業業績には、旧アセット・マネジメント部門の再編に関連したポジション、小規模市場撤退施策に関連したランオフ(漸次縮小)業務と一部のレガシー・クロスボーダー関連ランオフ業務、訴訟関連費用(主として米国クロスボーダー問題関連)、ドイツ国内業務再編の影響、その他旧コーポレート&インスティテューショナル顧客事業における非戦略的ポジションの縮小、いくつかの金融商品のランオフ及び積極的な削減などが含まれています。

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門－非戦略的事業業績

	期/期末			増減率(%)		期/期末 増減率(%)		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
非戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)								
純収益	20	186	169	(89)	(88)	529	1,008	(48)
貸倒引当金繰入額	3	(1)	17	-	(82)	11	70	(84)
営業費用合計	142	116	776	22	(82)	2,156	1,325	63
税引前利益/(損失)	(125)	71	(624)	-	(80)	(1,638)	(387)	323

2014年第4四半期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業における税引前損失は、1億2,500万CHFでした。前四半期の同部門の非戦略的事業の税引前利益は7,100万CHFでしたが、これにはドイツで計上された国内プライベート・バンキング事業の売却益1億900万CHFが含まれています。

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の運用資産

運用資産は、1兆3,773億CHFであり、前四半期末と比較して112億CHF増加しましたが、これは、正味資産流出によって一部相殺されたものの、主に米ドル高による外国為替関連動向とポジティブな市場動向によるものです。2014年通期では、運用資産は1兆3,773億CHFと、前年末と比較して7.4%増加しましたが、これはポジティブな外国為替関連動向、ポジティブな市場動向及び新規純資産282億CHFによるものです。

新規純資産: 当四半期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門は30億CHFの正味資産流出を計上しました。戦略的ポートフォリオにおいて、ウェルス・マネジメント顧客事業は、当四半期に44億CHFの新規純資産にの獲得で貢献しましたが、これは、新興成長市場(特に欧州、中東及びアフリカ(EMEA)とアジア太平洋地域)からの継続的かつ堅調な流入があったためです。当四半期のスイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業における新規純資産は36億CHFでした。当四半期のアセット・マネジメント事業の正味資産流出は106億CHFでしたが、これは主にクレディ・スイスが重要な投資を行っているファンドの運用会社を、Hedging-Griffoからブラジルの新規ベンチャーであるVerde Asset Managementに変更した結果、92億CHFの資産流出が生じたことによるものです。非戦略的事業ポートフォリオにおいては、28億CHFの正味資産流出がありました。これは非戦略的ポートフォリオの縮小によるものです。2014年通期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の新規純資産は282億CHFでした。戦略的ポートフォリオにおいて、ウェルス・マネジメント顧客事業は275億CHFの新規純資産に寄与しましたが、これは、西欧市場のクロスボーダーの流出によって一部相殺されたものの、新興市場と超富裕層個人顧客セグメントからの流入があったためです。スイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業における新規純資産は55億CHFでした。アセット・マネジメント事業の新規純資産は37億CHFでしたが、これは新興市場のジョイントベンチャー、及び株価指数連動商品/クレジット商品からの資産流入によるもので、Verde Asset Management関連の資産流出によって一部相殺されました。非戦略的ポートフォリオにおいては、82億CHFの正味資産流出がありました。これは一部の事業の撤退によるもので、そのうち20億CHFは非継続事業に分類されました。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の運用資産

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
事業別運用資産 (単位: 十億CHF)								
ウェルス・マネジメント顧客事業	874.5	864.3	790.7	1.2	10.6	874.5	790.7	10.6
コーポレート&インスティテューショナル顧客事業	275.9	266.6	250.0	3.5	10.4	275.9	250.0	10.4
アセット・マネジメント事業	388.5	391.1	352.3	(0.7)	10.3	388.5	352.3	10.3
非戦略的事業	10.8	13.4	44.4	(19.4)	(75.7)	10.8	44.4	(75.7)
事業全体で運用される資産	(172.4)	(169.3)	(155.0)	1.8	11.2	(172.4)	(155.0)	11.2
運用資産	1,377.3	1,366.1	1,282.4	0.8	7.4	1,377.3	1,282.4	7.4
平均運用資産 (単位: 十億CHF)								
平均運用資産	1,373.8	1,346.7	1,284.6	2.0	6.9	1,328.5	1,291.2	2.9
事業別新規純資産 (単位: 十億CHF)								
ウェルス・マネジメント顧客事業	4.4	5.1	1.7	(13.7)	158.8	27.5	18.9	45.5
コーポレート&インスティテューショナル顧客事業	3.6	0.9	4.0	300.0	(10.0)	5.5	8.8	(37.5)
アセット・マネジメント事業	(10.6)	3.3	(0.5)	-	-	3.7	15.0	(75.3)
非戦略的事業	(2.8)	(1.4)	(1.0)	100.0	180.0	(8.2)	(5.9)	39.0
事業全体で運用される資産	2.4	(0.5)	0.2	-	-	(0.3)	(4.7)	(93.6)
新規純資産	(3.0)	7.4	4.4	-	-	28.2	32.1	(12.1)
新規純資産成長率 (年率) (%)								
新規純資産成長率: ウェルス・マネジメント顧客事業	2.0	2.5	0.9	-	-	3.5	2.5	-
新規純資産成長率: アセット・マネジメント事業	(10.8)	3.5	(0.6)	-	-	1.1	4.6	-

インベストメント・バンキング部門

2014年第4四半期のインベストメント・バンキング部門の税引前利益は1,200万CHF、純収益は24億5,400万CHFでした。当四半期の収益は、資金調達評価調整額2億7,900万CHFの計上(戦略的事業の1億800万CHFと非戦略的事業の1億7,100万CHFを含む)によるマイナスの影響を受けました。これにもかかわらず、**戦略的**事業における税引前利益は安定的な収益、コスト基盤の縮小、及びスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーの縮小を背景に、前年同期比で20%増加しました。戦略的**事業**の収益及び税引前利益は、大規模な顧客取引を含め堅調だった前四半期と比較して減少しました。**非戦略的**事業は、コモディティ取引ポートフォリオの売却に見られるように、引き続き縮小戦略をとりました。

2014年通期のインベストメント・バンキング部門の収益性は大幅に改善し、税引前利益は前年の17億1,900万CHFに対して21億700万CHF、純収益は前年の125億6,500万CHFに対して125億1,500万CHFとなりました。**戦略的**事業における税引前利益は前年の38億9,400万CHFに対して37億4,400万CHF、純収益は前年の130億9,600万CHFに対して130億8,700万CHFとなりました。戦略的**事業**における収益は横ばいとなりましたが、これは債券販売及び取引業務、並びに引受及びアドバイザリー業務の業績拡大が、株式販売及び取引業務の業績低下によって相殺されたことによるものです。債券販売及び取引事業の収益は前年と比較して4%増加しましたが、これは証券化商品業務が引き続き好調であることと、新興国市場の収益回復によるものです。株式販売及び取引業務の収益は5%減少しましたが、これは、当年度における低水準の取引高やボラティリティの低下などの悪化した取引環境によるものでした。これに加えて、2013年の業績が日本の量的緩和による追い風を受けていた点も挙げられます。システムティック・マーケットメイキングの業績は、堅調だった前年から大幅に低下しました。キャッシュ・エクイティの業績は、不利な市場環境とブラジルにおける活動が低調であることの影響を受けました。業績の低下は、強力な市場シェア、ポートフォリオの継続的な最適化、及び取引・清算活動の拡大を背景とするプライム・サービスの収益増加によって一部相殺されました。デリバティブの収益も堅調でしたが、これは好調な顧客取引活動、及び商品・地域全体にわたる事業多角化戦略によるものです。引受及びアドバイザリー業務の業績は若干拡大しましたが、これは債券引受の業績低下によってほぼ相殺されたものの、新規株式公開(IPO)を中心とする堅調な株式引受業務、合併・買収(M&A)活動の拡大によるものです。営業費用合計は、2013年度から横ばいでした。**非戦略的**事業は、収益率の

高い事業における成長戦略に向けて資源を再配置するという目標の下で、非戦略的ユニットの縮小を引き続き推進し、米ドル建てのバーゼル3リスク加重資産、スイス国内のレバレッジ・エクスポージャー及びコストを縮小しました。その結果、2014年度の純損失は前年の5億3,100万CHFに対して5億7,200万CHFとなりました。営業費用合計は、主に米連邦住宅金融局との和解を含む住宅ローン関連の訴訟引当金が増加した2013年と比較して、大幅に減少しました。

資本指標: 2014年第4四半期末時点のインベストメント・バンキング部門の**戦略的事業**におけるバーゼル3リスク加重資産は1,510億米ドルと、前年同期末と比較して20億米ドル、前四半期末と比較して80億米ドル、それぞれ減少しました。スイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは7,300億米ドルと、前年同期末と比較して190億米ドル、前四半期末と比較して610億米ドル、それぞれ減少しました。インベストメント・バンキング部門では、**非戦略的事業**の縮小が大きく進展した結果、バーゼル3リスク加重資産とスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーが大幅に縮小しました。2014年第4四半期末時点のバーゼル3リスク加重資産は100億米ドルと、前年同期末と比較して110億米ドル、前四半期末と比較して10億米ドル、それぞれ減少しました。2015年末までのバーゼル3リスク加重資産の目標額は60億米ドルです。スイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは640億米ドルと、前年同期末と比較して230億米ドル、前四半期末と比較して10億米ドル、それぞれ減少しました。2015年末までのスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーの目標額は240億米ドルです。

インベストメント・バンキング部門

	期/期末			増減率(%)		期/期末			増減率(%)	
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY		
公表業績 (単位: 百万CHF)										
純収益	2,454	3,303	2,668	(26)	(8)	12,515	12,565	0		
貸倒引当金繰入額	30	36	8	(17)	275	61	13	369		
従業員報酬及び給付費用	1,179	1,450	1,355	(19)	(13)	5,649	5,435	4		
その他の営業費用合計	1,233	1,301	1,869	(5)	(34)	4,698	5,398	(13)		
営業費用合計	2,412	2,751	3,224	(12)	(25)	10,347	10,833	(4)		
税引前利益/(損失)	12	516	(564)	(98)	-	2,107	1,719	23		
指標 (%)										
規制資本利益率	0.2	8.3	-	-	-	8.8	6.7	-		
費用/収入比率	98.3	83.3	120.8	-	-	82.7	86.2	-		

戦略的事業業績

当四半期のインベストメント・バンキング部門の**戦略的事業**は、税引前利益5億7,900万CHF、純収益27億4,800万CHFを計上しました。純収益は、1億800万CHFの資金調達評価調整額の計上(債券販売及び取引の9,500万CHFと株式販売及び取引の1,300万CHFを含む)による影響を反映しています。債券の取引環境としては、原油価格の急落を背景に、ボラティリティが上昇しました。債券販売及び取引業務の収益は前年同期と比較して増加しましたが、これはグローバル・マクロ商品の取引高及び顧客取引活動の拡大、並びに収益率の高い証券化商品業務が引き続き好調だったことによるものです。収益は、多くの事業にわたって事業環境が良好で堅調だった前四半期と比較して減少しました。株式販売及び取引の業績は、引き続き好調なプライム・サービスと市場取引高の拡大、ボラティリティの上昇に伴って堅調な取引実績を反映して、前年同期、前四半期を共に上回りました。引受及びアドバイザー業務の業績は、市場ボラティリティの上昇がレバレッジ・ファイナンスを中心とする引受活動にマイナスの影響を及ぼしたため、前年同期、前四半期を共に下回りました。業績の低下はアドバイザー収益の拡大によって一部相殺されました。当四半期の業績において、スイスフランの対米ドル平均為替レートの下落は、収益にプラスに寄与した一方で、費用にはマイナスに影響しました。スイスフラン・ベースでは収益は前年同期と比較して横ばい、営業費用合計は6%減少した一方で、米ドル・ベースでは収益は

8%、営業費用は13%減少しました。前四半期と比較すると、スイスフラン・ベースでは収益は20%、営業費用合計は10%減少した一方で、米ドル・ベースでは収益は23%、営業費用は14%減少しました。

債券販売及び取引業務: 当四半期の資金調達評価調整額を除く業績は、前年同期と比較して19%増加しました。債券の取引環境としては、原油価格の急落を背景にボラティリティが上昇しました。こうした市場環境は、グローバル・マクロ商品の取引高と顧客取引活動を押し上げた一方で、グローバル・クレジット商品にはマイナスの影響を及ぼしました。債券関連部門全体の収益は増加しましたが、これは特に欧州の金利業務と外国為替業務において、グローバル・マクロ商品が低調だった前年同期から大幅に回復したことによるものです。証券化商品の収益は大幅に増加しましたが、これは市場シェアの拡大と継続的な分散化がアセット・ファイナンスの堅調な伸びを後押ししたことによるものです。ただし、こうした効果は、レバレッジド・ファイナンスの組成活動の低下が顧客取引高の減少による取引収益の低下につながったために、企業向け融資とグローバル・クレジット商品の収益が減少したことと一部相殺されました。新興国市場の収益は減少しましたが、これは欧州・中東・アフリカ(EMEA)の取引業務の堅調な収益によっても中南米の不振を相殺し切れなかったことによるものです。資金調達評価調整額を除く債券販売及び取引業務の収益は、有利な業務環境を背景に業績が堅調だった前四半期を39%下回りました。新興国市場の収益は大幅に減少しましたが、これは大半の地域にわたる取引活動の低下及びファイナンス活動の低下によるものです。証券化商品の収益は減少しましたが、これはアセット・ファイナンス業務の継続的な好調によっても非政府機関債及び政府機関債の業績低下を相殺し切れなかったことによるものです。グローバル・クレジット商品の収益は、主に取引環境の悪化によるレバレッジド・ファイナンスの業績低下を背景に減少しました。企業向け融資業務の収益も減少しました。グローバル・マクロ商品の収益は、米国の業績悪化を背景に減少しました。

株式販売及び取引業務: 当四半期の株式販売及び取引業務の収益は前年同期を上回りました。これは株価の上昇と取引高の増加、及びボラティリティの回復によるものです。プライム・サービスの業績は堅調でしたが、これは強大な市場シェア、ポートフォリオの継続的な最適化、取引・清算活動の拡大によるものです。デリバティブ業務の業績は、アジア太平洋と中心とする成長市場への進出を背景に増加しました。システムティック・マーケット・メーカー業務の業績は、ボラティリティの回復に伴い取引環境が改善した結果、増加しました。キャッシュ・エクイティ業務の収益は横ばいでした。前四半期に比べると、取引環境の改善によるシステムティック・マーケット・メーカーの収益の大幅な改善が、業績に反映される結果となりました。キャッシュ・エクイティ業務の収益は、手数料の増加を背景に増加しました。プライム・サービスの収益も、顧客取引及び清算活動の拡大を背景に増加しました。この増収は、デリバティブの収益が、特にアジア太平洋地域でプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門が販売するフィー・ベースの商品が堅調に成長した前四半期から減少したことで、一部相殺されました。

引受及びアドバイザー業務: 債券引受業務の業績は、好調だった前年同期と比べて低下しましたが、これは主にレバレッジド・ファイナンスの業績の不振によるものです。レバレッジド・ファイナンスの収益は、当四半期における原油価格の急落を背景とする信用市場のボラティリティ上昇によるマイナスの影響を受けました。業績には、新興国市場のストラクチャード・ファイナンス関連の貸出し及び投資適格債の発行業務による収益の減少も反映されています。株式引受業務の業績は業界活動が好調だった前年同期に比べて低下しましたが、これは当四半期において市場のボラティリティ上昇に伴い発行額が縮小したことによるものです。その結果、IPO、追加売出し、転換社債の全てにわたり収益が減少しました。アドバイザー業務の収益は、ウォレット・シェアの低下によって一部相殺されたものの、M&A活動が拡大したことにより、前年同期と比較して好調でした。債券引受業務の業績は前四半期と比べて低下しましたが、これは季節要因によるレバレッジド・ファイナンス業界の取引活動の鈍化、市場環境の悪化、及びウォレット・シェアの低下によるものです。業績には新興国市場のストラクチャード・ファイナンス関連の貸出し及び投資適格債の発行関連の減収も反映されました。株式引受業務の業績は前四半期と比べて

低下しましたが、これは前四半期の業績に画期的な案件となったアリババの取引が含まれていたことによるものです。転換社債の収益は減少しましたが、これは PO と IPO による収益の増加が業界の取引活動の低下とウォレット・シェアの低下を補い切れなかったことによるものです。アドバイザリー業務の収益は前四半期を上回りましたが、これはウォレット・シェアの低下によって一部相殺されたものの、M&A 市場全般の環境改善を背景としてアドバイザリー業務の収益が増加したことによるものです。

インベストメント・バンキング部門－戦略的事業業績

	期／期末			増減率(%)		期／期末 増減率(%)		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
戦略的事業業績 (単位：百万CHF)								
債券引受業務	307	519	483	(41)	(36)	1,777	1,902	(7)
株式引受業務	205	214	273	(4)	(25)	870	765	14
引受業務合計	512	733	756	(30)	(32)	2,647	2,667	(1)
アドバイザリー及びその他の報酬	238	170	194	40	23	749	658	14
引受及びアドバイザリー合計	750	903	950	(17)	(21)	3,396	3,325	2
債券販売及び取引	850	1,551	794	(45)	7	5,457	5,232	4
株式販売及び取引	1,231	1,069	1,068	15	15	4,625	4,847	(5)
販売及び取引合計	2,081	2,620	1,862	(21)	12	10,082	10,079	0
その他	(83)	(104)	(31)	(20)	168	(391)	(308)	27
純収益	2,748	3,419	2,781	(20)	(1)	13,087	13,096	0
貸倒引当金繰入額	14	29	4	(52)	250	38	7	443
営業費用合計	2,155	2,395	2,296	(10)	(6)	9,305	9,195	1
税引前利益	579	995	481	(42)	20	3,744	3,894	(4)
指標 (%)								
規制資本利益率	9.9	17.1	8.9	-	-	16.8	17.3	-
費用／収入比率	78.4	70.0	82.6	-	-	71.1	70.2	-

営業費用合計：営業費用合計は前年同期を6%下回りました。これは、スイスフランの対米ドル為替レートの下落による外国為替換算の影響を背景とする一般管理費の増加によって一部相殺されたものの、裁量業績連動報酬の費用と英国銀行税費用がともに減少したことによるものです。前四半期比で見ると、営業費用合計はスイスフラン・ベースで10%減少しました。これは、主に裁量業績連動報酬の費用の減少によるものです。一般管理費は、スイスフランの対米ドル為替レートの下落による外国為替換算の影響を背景に、増加しました。米ドル建ての一般管理費は、訴訟費用の減少と英国銀行税費用の減少が設備関連費用の増加によって相殺されたため、横ばいとなりました。

非戦略的事業業績

インベストメント・バンキング部門の非戦略的事業業績には、債券の縮小ポートフォリオ、レガシー金利事業(主として非上場商品及び自己資本比率における資本配賦要件の高い仕組商品)、コモディティ取引事業、バーゼル3に対応しない自社社債に関連したレガシー資金調達費用、並びに以前からの訴訟費用及びその他の小規模の非戦略的ポジションが含まれています。

インベストメント・バンキング部門－非戦略的事業業績

	期／期末			増減率(%)		期／期末 増減率(%)		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	YoY
非戦略的事業業績 (単位：百万CHF)								
純収益	(294)	(116)	(113)	153	160	(572)	(531)	8
貸倒引当金繰入額	16	7	4	129	300	23	6	283
営業費用合計	257	356	928	(28)	(72)	1,042	1,638	(36)
税引前損失	(567)	(479)	(1,045)	18	(46)	(1,637)	(2,175)	(25)

インベストメント・バンキング部門は、当四半期もバーゼル3リスク加重資産及びスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーの縮小を含む非戦略的事業ユニットの漸次縮小戦略を引き続き推進し、特筆すべ

きものとしてコモディティ・ポートフォリオの売却を実行しました。当四半期の非戦略的事業について、税引前損失5億 6,700 万 CHF、純損失2億 9,400 万 CHF を計上しました。純損失の幅は前年同期と前四半期いずれと比べても拡大しました。これは主に、資金調達評価調整額1億 7,100 万 CHF を計上したことに加え、前年同期と前四半期には債券縮小ポートフォリオでの積極的なポートフォリオ管理戦略を通じた大幅な評価益によるプラス効果があったことが影響しています。これらの税引前損失及び純損失は、前年同期及び前四半期の双方と比較して増加した住宅ローン関連商品の保証請求による利益、レガシー社債及び取引資産双方の積極的な運用による資金調達費用の前年同期比での減少、レガシー金利の前四半期比での良好な業績によって、一部相殺されました。営業費用合計は、前年同期比、前四半期比共に減少しましたが、これは主に訴訟関連引当金の大幅な減少によるものです。

コーポレート・センター

コーポレート・センターには、親会社の業務、例えば、グループ・ファイナンス、クレディ・スイス・グループがスポンサーとなっているプロジェクトにかかる費用、各部門に割り当てられない一部の費用及び収益などが含まれています。また、グループ内企業間の収益及び費用を除外するために必要な連結及び除去調整分も含まれています。

コーポレート・センターは、2014 年第4四半期に税引前利益2億 8,400 万 CHF を計上しました。前年同期は3億 8,900 万 CHF の税引前損失、前四半期は1億 5,800 万 CHF の税引前損失でした。コーポレート・センターは、戦略的事業の業績について1億 3,700 万 CHF の税引前損失を計上しました。非戦略的事業の業績については4億 2,100 万 CHF の税引前利益を計上しました。これには、主に不動産売却益3億 7,500 万 CHF、自社信用スプレッドの公正価値評価益3億 2,400 万 CHF が含まれ、その一部は、主にクレディ・スイス・グループ全体のコスト効率化措置に関連する退職金及びその他の報酬費用から成る事業再編費用2億 600 万 CHF 並びに IT 構築簡素化費用 8,200 万 CHF によって相殺されました。

2014 年通期では、コーポレート・センターは、税引前損失6億 8,600 万 CHF を計上しました。前年の税引前損失は 14 億 5,500 万 CHF でした。コーポレート・センターは、戦略的事業の業績については6億 8,000 万 CHF の税引前損失を計上しました。非戦略的事業の業績については 600 万 CHF の税引前損失を計上しましたが、これには、主に事業再編費用4億 7,300 万 CHF、IT 構築簡素化費用2億 9,300 万 CHF、Customized Fund Investment Group 事業及びドイツで計上された国内プライベート・バンキング事業の売却に関連する1億 4,300 万 CHF の非継続事業への分類変更が含まれ、その一部は自社信用スプレッドの公正価値評価益5億 4,500 万 CHF と不動産売却益4億 1,400 万 CHF によって相殺されました。

コーポレート・センター

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	4Q14	3Q14	4Q13	QoQ	YoY	2014	2013	増減率(%)
公表業績 (単位: 百万CHF)								
純収益	696	109	(177)	-	-	663	(790)	-
貸倒引当金繰入額	3	(2)	1	-	200	2	2	0
従業員報酬及び給付費用	174	102	119	71	46	677	455	49
その他の営業費用合計	235	167	92	41	155	670	208	222
営業費用合計	409	269	211	52	94	1,347	663	103
税引前利益/(損失)	284	(158)	(389)	-	-	(686)	(1,455)	(53)
非戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)								
純収益	650	180	(160)	261	-	732	(735)	-
貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-	0	0	-
営業費用合計	229	93	161	146	42	738	372	98
税引前利益/(損失)	421	87	(321)	384	-	(6)	(1,107)	(99)

貸借対照表、株主資本、規制上の報告及びその他の情報

貸借対照表

2014年第4四半期末の資産合計は9,214億CHFで、前四半期に比べ3%減少しました。これは、外国為替換算の影響によって一部相殺されたものの、営業活動が減少したことによるものです。外国為替換算調整による影響分を除いた場合、資産合計は541億CHFの減少となりました。

株主資本合計

クレディ・スイス・グループの当四半期末の株主資本合計は、442億CHF(前四半期末は439億CHF)に増加しました。株主資本合計は、純利益、累積為替換算調整額に対する外国為替の変動、株式報酬の付与の増加による影響を受けました。これらの変動は、保険数理上の年金調整、及び将来の株式報酬付与に対するヘッジ取引によって一部相殺されました。当四半期末のクレディ・スイス・グループの発行済株式数は、16億720万株です。

規制資本及び比率—バーゼル3

当四半期末の普通株式等 Tier 1 (CET 1) 比率は 15.0% で、前四半期末の 14.3% を上回りました。これは CET 1 資本の増加とリスク加重資産の小幅な減少によるものです。クレディ・スイス・グループの当四半期末の Tier 1 比率は、17.2%、前四半期末は 16.4% でした。当四半期末の自己資本比率は、前四半期末の 20.1% から 20.9% へ増加しました。当四半期末の CET 1 資本は 436 億 CHF で、前四半期末の 418 億 CHF を上回りましたが、これは主として、年金関連の調整による正味の影響によって一部相殺されたものの、純利益、外国為替換算のプラスの影響、当四半期の調整後未払配当金及び株式ベースの報酬の正味の影響によるものです。

当四半期末リスク加重資産は 15 億 CHF 減少して 2,914 億 CHF となりました。これは主に、外国為替換算の影響によって一部相殺されたものの、信用リスクが減少したことによるものです。

当四半期末の適格資本合計は 610 億 CHF で、前四半期末の 588 億 CHF を上回りましたが、これは CET 1 資本が 436 億 CHF に増加したこと、追加 Tier 1 資本が 65 億 CHF に増加したこと、及び Tier 2 資本が 109 億 CHF に増加したことによるものです。

当四半期末のルックスルー CET 1 比率は、前四半期末の 9.8% に対して 10.2% となり、年末目標の 10% を上回りました。長期目標は 11.0% です。

資本比率—バーゼル3

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	4Q14	3Q14	4Q13	4Q14	3Q14	4Q13
BIS基準資本比率 (%)						
CET1比率	15.0	14.3	15.7	10.2	9.8	10.0
Tier 1比率	17.2	16.4	16.8	14.1	13.6	12.8
自己資本比率	20.9	20.1	20.6	16.6	15.9	15.1

スイス規制資本及び比率

当四半期末のスイス国内 CET 1 資本比率は 14.9%、スイス国内自己資本比率は 20.8% であり、これに対してスイス国内資本比率段階的導入要件は、それぞれ 6.75%、10.18% でした。

ルックスルー・ベースでは、当四半期末のスイス国内 CET 1 資本は前四半期末の 278 億 CHF に対して 287 億 CHF、スイス国内 CET 1 比率は前四半期末の 9.7% に対して 10.1% でした。当四半期末のスイス国内の適格自己資本は前四半期末の 454 億 CHF に対して 470 億 CHF、同自己資本比率は前四半期末の 15.8% に対して 16.5% でした（それぞれルックスルー・ベース）。

スイス国内レバレッジ比率

当四半期末のスイス国内レバレッジ比率は 5.0%、合計平均エクスポージャーは 1 兆 2,275 億 CHF でした。当四半期末現在のスイス国内の合計エクスポージャーは、1 兆 2,130 億 CHF でした。当四半期末現在のルックスルーのスイス国内レバレッジ比率は 3.9% であるのに対し、2019 年要件の現在の必要水準は 4.0% です。2015 年におけるスイス国内レバレッジ比率の 2019 年要件は 4.1% です。

スイス国内レバレッジ比率

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	4Q14	3Q14	4Q13	4Q14	3Q14	4Q13
レバレッジ比率 (%)						
スイス国内レバレッジ比率	5.0	4.9	5.1	3.9	3.8	3.7

バーゼル銀行監督委員会 (BCBS) のレバレッジ比率

クレディ・スイス・グループは 2015 年第 1 四半期初めから新規バーゼル銀行監督委員会 (BCBS) のレバレッジ比率の枠組みを採用しています。この枠組みはスイス金融市場監督局 (FINMA) がスイス国内で導入しているものです。BCBS の枠組みの下では、レバレッジ比率は期末のエクスポージャーに対する Tier 1 資本の比率として計測されます。2014 年 12 月 31 日時点で、Tier 1 資本に対して計測されるルックスルーの BCBS レバレッジ比率の試算は 3.4% で、BCBS レバレッジ・エクスポージャーの合計は 11 億 6,700 万 CHF でした。クレディ・スイス・グループは 2015 年末までの目標として、ハイ・トリガー及びロー・トリガーの資本商品を含むルックスルーのレバレッジ比率を約 4.5%、ルックスルーの CET 1 レバレッジ比率を約 3.0% に設定しています。また、以前公表したスイス国内のレバレッジ・エクスポージャー目標約 10 億 5,000 万 CHF を変更し、2015 年末までの BCBS レバレッジ・エクスポージャーの目標を、為替換算調整後ベースで 9,300 億から 9,500 億 CHF にとしました。

債券格付け

スタンダード・アンド・プアーズは 2015 年 2 月 3 日にクレディ・スイスの持株会社であるクレディ・スイス・グループ AG を含む多数の欧州銀行グループの格付けを引き下げました。クレディ・スイス・グループ AG の格付けは 1 ノッチ引き下げられました。クレディ・スイス AG を含め、大半の事業活動が行われているクレディ・スイスの事業会社の格付けは、現時点では据え置かれています。